



◎第73回沖展でうるま市長賞を受賞した長谷川梨子さんの絵画「木曜日」を表現できるのが絵画の魅力」と語る長谷川梨子さん=沖縄タイムス社

10代の心 絵画に込め

最年少受賞の長谷川さん=首里高3年



受賞作は「木曜日」。縦約120cm、横約160cmのベニヤ板にアクリル絵の具で大小さまざまな物やイメージを描いた大作だ。「1週間のうちで最も憂鬱と感じるけれど、休日が近く喜びもある木曜日」をテーマに、心の動きを表現。暗い抽像画に魅了され、「なぜぞ」と思って描いてみたいと憧れた。高校では美術部の門をたたき、2、3年時に県高校総合文化祭の美術・工芸部門で優秀賞を受賞した。

沖展受賞作の構想は昨年9月。卒業制作や受験勉強を控えて焦りや葛藤を感じながらも「友人と思い出をつくりたり、自分の成長を感じたりできた期間。いろんな気持ちを絵にしたかった」といい、高校生活の大成を飾った。今年春から沖縄女子短期大学の初等教育コースで学ぶ。『小学校の教員にならぬことを伝えたい』と将来を描いている。

恩師の作品 かっこいい

OKITEN 2022 73rd
わたしの
推し展



高校時代の書道部顧問で、私に初めて書道を教えてくれた恩師の作品。「明」などの中文字に表れているアシンメトリーワードの美しさ、線の間隔のバランスや強弱のメリハリの良さ。やはり先生はかっこいいなと思う。(宣野鷺市)

